

社会福祉法人 太樹会



# 社会福祉法人 太樹会 第13回 実践報告

中期経営計画2027  
2022年4月～2027年3月の5ヵ年計画

## 4 専門性と支援の質の追求



和里（にこり）

Page	Title	Department
P4～5	支援の場で生成AI（ChatGPT）の活用を試みる	飛鳥ユニット
P6～7	ショートステイの特別養護老人ホーム転換について	高円ユニット
		施設ケアマネジャー
		龍田ユニット
P8～9	外国人社員が和里（にこり）から受けた応援	葛城ユニット
		生活相談員
		三輪ユニット
P10～11	外出支援からQOLの向上を図った取り組み	ニ上ユニット
		吉野ユニット
P12～13	その人らしい暮らしの継続を実現する取り組み	朱雀ユニット
		青龍ユニット
P14～15	医務室における看護の統一化 ～3施設が互いに応援に行ける体制作り～	白虎ユニット
		玄武ユニット
P16～17	シナプロジー活用による 認知機能の向上の変化についての検証	医務室
		デイサービスセンター和里（にこり）
		デイサービスセンター和里（にこり）香芝
		ケアプランセンター
P18～19	GLTD導入を基に福利厚生に対する社員の意識調査	事務室



和里（にこり）香芝

P20～21	和里（にこり）香芝における食事の味の満足度調査	万葉ユニット
		大和ユニット
		天羽ユニット
		飛龍ユニット
P22～23	朝スープ活動を導入する試み	和里（にこり）
		和里（にこり）香芝
		和里（にこり）香芝Ⅱ



和里（にこり）香芝Ⅱ

P24～25	余暇活動再開による生活の質の向上	畠傍ユニット
		香具ユニット
		耳成ユニット

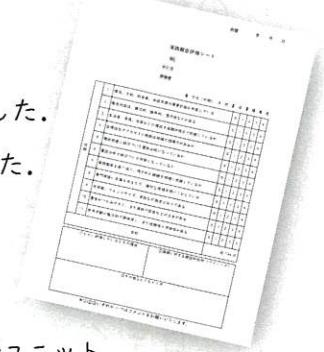
社会福祉法人 太樹会 第13回 実践報告  
評価結果



Rank	Department	Title	Page
1	和里（にこり） 白虎・玄武	その人らしい暮らしの継続を実現する取り組み	P12~13
2	和里（にこり） 和里（にこり）香芝 医務室	医務室における看護の統一化	P14~15
3	和里（にこり） 飛鳥・高円・施設ケアマネ	支援の場での生成AI（ChatGPT）の活用を試みる	P4~5
4	和里（にこり） 朱雀・青龍	外出支援からQOLの向上を図った取り組み	P10~11
5	デイサービスセンター和里（にこり） ・デイサービスセンター和里（にこり）香芝 ・ケアプランセンター	シナプロジー活用による認知機能の向上の変化についての検証	P16~17

外部評価者の皆さん、ご多用のところご協力ありがとうございました。

惜しくも入賞にならなかった皆さん、報告ありがとうございました。



和里（にこり）

二上ユニット

三輪ユニット

吉野ユニット

龍田ユニット

玄武ユニット

栄養

総務



和里（にこり）香芝

大和ユニット

万葉ユニット

天羽ユニット

飛龍ユニット

事務



和里（にこり）香芝II

耳成ユニット

畠傍ユニット

香具ユニット

事務



# 支援の場で生成AI（ChatGPT）の活用を試みる

私たち

部署： 飛鳥ユニット， 高円ユニット， 施設ケアマネジャー

施設名： 和里（にこり）

報告者： 吉田， 窪， 増田

取り組みのねらい

AIのサポートで職務の効率とケアの質の向上を目指すためChatGPTを支援の場に導入し、課題分析への手助けや職務の効率化を検証する。

近年、日本は高齢化社会が進み、介護の担い手が不足している。その人材不足の中で介護業界においては、統一されたチームケアやその質の高さ、課題に対する早急なアプローチ、外国人労働者を含めたチーム内での情報共有やそのためのお互いのコミュニケーション能力など求められることは多々ある。

目まぐるしく変化する介護業界でこれらの課題分析の効率化を図るべく、新しい技術を取り入れられたらと考える。

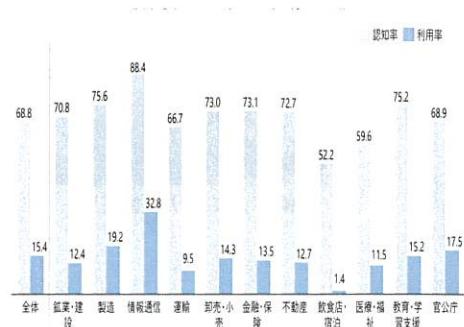
そこで、昨年に日本にも導入されたChatGPTが支援の場に活用できなかと考えた。

ChatGPTの各企業における認知率と利用率を調べた結果、医療・福祉は活用率11%とワースト2位であった。（1）

介護業界にもChatGPTを上手く取り入れることで職務の効率化やケアの質の高さにつなげ、ケアする側される側、双方の利点につながる活用ができるのか、今回は課題分析へのアプローチ方法で検証してみることとする。



本発表では、OpenAIが開発した言語モデル「ChatGPT」を用いて、ソーシャルメディア上の言語パターンを分析しました。



出所) NRI「インサイトシグナル調査」2023年6月4~5日

(1) 野村総研研究所

## 取り組みの内容

各ユニット生活者を1名選定する。検討したい課題を挙げChatGPTに課題分析を依頼し、ユニットにフィードバックする。

飛鳥ユニットA様（女性）は、何か月も入浴できていない。どうしたら入浴されるのか？高円ユニットB様（男性）は、熱心に歩行運動されていたのに、次第に部屋にこもるようになった。どのようにアプローチすればよいのか？課題をChatGPTに入力する。それに対し、数秒で何通りかのアプローチ方法がChatGPTより提示される。その内容をユニット支援職で共有する。そして取り組めそうなことを実践した。

CH

特養に入居されている85歳女性。こだわりが強く、入浴も断ることが多い。ショートステイ利用中は入浴できるようになったのに、特養に入居されてから再びお風呂に入られなくなった。何度も説うと余計に嫌がられる。どうしたら入浴してもらえるのか？

ChatGPT

特養に入居されている方が入浴を嫌がる場合、それに対処するためにいくつかのアプローチがあります。以下にいくつかの提案をご紹介しますが、注意点としては、個々の状況やその方の性格や好みに合わせて柔軟にアプローチすることが重要です。

1. コミュニケーションと理解：まず、その方の意見や感情を尊重し、お風呂に入るごとになぜ嫌がるのかを理解しようと努めましょう。過去の経験や健康上の問題が原因かもしれません。ゆっくりとコミュニケーションを取りながら、その方がどのようない不安や困難を抱えているのかを聞き出しましょう。
2. 環境の改善：入浴する場所や環境に問題がある場合、それを改善することで入浴のハードルを下げることができます。例えば、お風呂の温度や湿度、滑りにくい床の使用、バスタブの高さなどを調整することで、入浴を快適にすることができます。
3. 個別のケアプランの作成：その方のニーズや希望に合わせた個別のケアプランを作成します。

## 取り組みの成果

文字化した情報共有は有益。ChatGPTを使用するタイミングや入力する内容をこちらが上手く使えれば、活用できる場はもっと広がる。

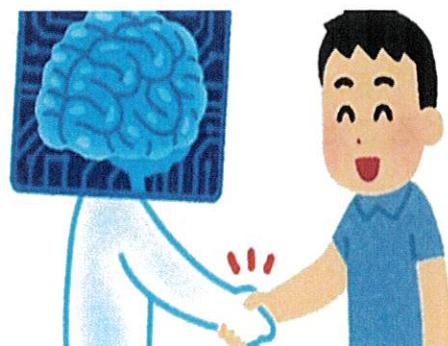
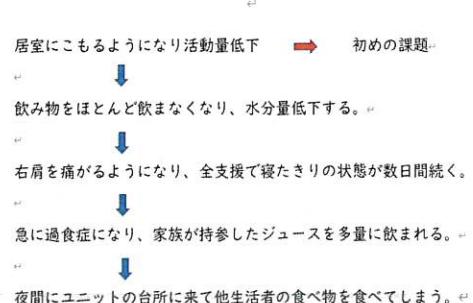
ChatGPTの回答は、「その方の意見や感情を尊重する」「環境の改善」などの項目に対して具体的な取り組み方法も記載されていた。普段行っている内容だが、文字化したものを見ると、ケアの再確認や、よりチームとして結束できるとの声が支援職より聞かれた。

A様は実践していく中で、少しずつだが入浴できるようになっている。

B様は、この期間に次々とご様子が変わり、それに伴って課題も当初の内容からかなり変化している。何度も多職種が集まって話し合うことが難しい時、ChatGPTを活用することで、即座に課題への改善方法が提示されることに大きな価値を感じた。

今回は、課題分析としてChatGPTを活用したが、使用用途により、もっと支援の幅の広がりや質が上がると感じた。これからも引き続きAIを支援の場に取り入れていければと考える。

B様のご様子の変化 <2023年6月～11月>



## テーマ

# ショートステイの特別養護老人ホーム転換について

## 私たち

部署： 葛城ユニット， 龍田ユニット， 生活相談員

施設名： 和里（にこり）

報告者： 宮田， 藤本， 堀江， 石塚

## 取り組みのねらい

生活者と家族， 社員にとって安心できる空床利用サービスを提供する。

和里（にこり）では，2023年8月1日に龍田・葛城ユニットが特別養護老人ホーム（以下，特養）に転換し，併用型から空床型ショートステイになった。

フェースシートによる情報共有では把握しきれない部分や，空床マニュアルが分かりにくいとの意見もあり，生活者と家族，社員それぞれにとって懸念点が多くあると考えられる。

今回は和里（にこり）支援職，医療職，栄養職にアンケート調査を実施する。

意見や現状を把握，それぞれの立場で感じたことを共有する。

空床利用を受けたことのないユニットも空床利用の対応を知ることができる。

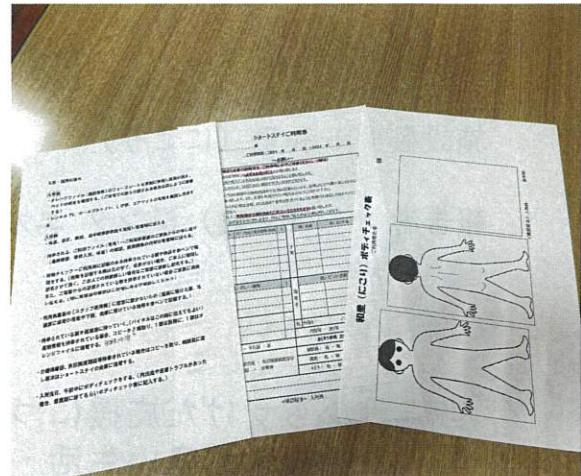
また，どのユニットを利用しても情報の共有ができていれば生活者と家族に，より安心していただけるサービスを提供することができる。



## 取り組みの内容

和里（にこり）支援職、医療職、栄養職の93名にアンケート調査を実施した。

- ・空床利用を受けたことがあるか
- ・空床マニュアルで気になる点
- ・フェースシートに求める点
- ・困ったこと
- ・気づいたこと



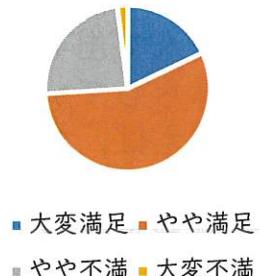
## 取り組みの成果

空床利用マニュアル・フェースシートを見直す機会となった。

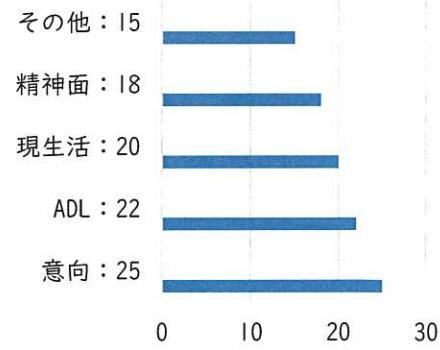
93名の社員にアンケート調査を行い、73名から回答あり、49名が空床利用を自身のユニットまたは協力ユニットの夜勤などで対応したことがあるとの結果だった。

空床マニュアルの気になる点に対しては、どの項目もほぼ同数の回答があった。フェースシートの内容には、大変満足9名、やや満足28名、やや不満12名、大変不満1名、と満足の声が多くかった。慣れないうショートステイの入退所の作業を日々の支援の中で対応しなければいけない不安や戸惑い、またユニットによっては入浴日が固定されていてお風呂の調整が難しい、特養にはない貴重品の取り扱いなどが分からぬという意見があった。この調査をしたことにより見えてきた不安や問題点を、各ユニットリーダーで話し合う場を持ち、お風呂の調整など、検討改善することにより、安心してショートステイを利用してもらえると考える。

フェースシート  
内容結果



フェースシート 優先度



## 外国人社員が和里（にこり）から受けた応援

私たち

部署： 三輪ユニット，ニ上ユニット，吉野ユニット

施設名： 和里（にこり）

報告者： （三輪）シンタ エカ プスピタサリ

取り組みのねらい

当施設から受けた応援について、外国人社員に調査を行い、今後、外国人社員のより良い生活・職場環境づくりを目的とする。

介護業界は、2025年問題や2040年問題といわれるよう、少子高齢社会の影響で働き手が不足することが予想され、介護業界では慢性的な人手不足の状態である。

当法人では3年前から外国人社員の受け入れを行っており、現在の社員数は、フィリピン5名、インドネシア2名、ベトナム3名、中国2名、合計12名である。

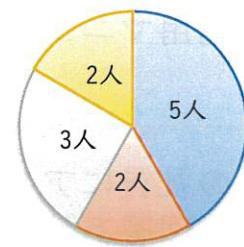
それぞれの国から日本を選択し、そして、当法人で出会い、ともに働きながら学び、暮らしている。

国が違えば、言葉、生活様式、宗教も違う。他国で暮らし、働くことの大変さは、私自身が来日し、当施設で働き始めて3年、身に染みて感じている。

しかし、困ったこと、不安な気持ちもたくさんあったが、当施設の応援に励まして、今、日本で暮らし、働くことができている。

そこで、生活、職場において、継続してほしい応援、今後必要な応援の調査を行い、これからも増えるであろう、外国人社員のより良い、生活・職場環境づくりを目標とする。

外国人社員数



□ フィリピン人 □ インドネシア人

□ ベトナム人 □ 中国人

日本語教室

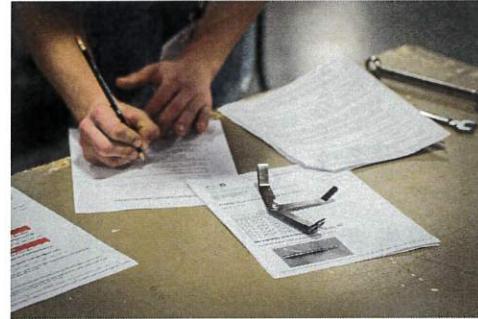


## 取り組みの内容

外国人社員にアンケート調査を実施した。

対象者は、当法人に雇用されている外国人社員12名とした。

アンケート調査は、自由記述式（無記名）とした。



## 取り組みの成果

アンケート調査の結果、継続してほしい応援・今後必要な応援について生活、職場において具体的な内容が得られた。

### ○職場において必要な応援実技の指導

国家試験に向けた勉強

### ○生活において必要な応援

家賃手当を元に戻してほしい

### ◎生活、職場において共通して継続して ほしい応援

日本語教室、わかりやすい日本語

・困っていることなどがあれば、社員が『優しい言葉』で指導、『がんばれ』と応援してくれる。

・会社も社員も健康に気遣ってくれる。

・手当や賞与に関してとても寛大なので感謝している

・和里（にこり）で働くことができ、楽しくて幸せだと思っている。

・今回は外国人社員のアンケートを実施したが日本人社員は外国人社員にしてどのように考えているのか調査し、互いを理解することによって、より良い職場環境につながるのではないかと考え、今後につなげていきたい。

### アンケート調査のまとめ

1. 仕事を、どんなことに困ったかと答えた人から12人が答えた。

1. コミュニケーション日本語 4人

2. 美容 4人

3. 電話相談 2人

4. 緊急用便 1人

5. 仕事の疲れ 1人

2. 困ったことがある時、にこりからどんな応援を受けたかという質問は12人から12人が答えた。

リーダーや担当者や事務の方が優しい日本語で教えてくれた、にこりから日本語教室がある。

3. 生活では、どんなことに困りましたかという質問は12人から12人が答えた。

1. 家賃手当の額がどうやってそれをもららない 3人

2. 所有しなどできないのがいいのか知らない 2人

3. 特になし 2人

4. 給食のこと 1人

5. ゲームの遊び方 1人

6. アパートの設備の修理 1人

7. 生活のこと 1人

8. 日本の交通 1人

4. 生活では、困ったことがある時にどんな恩恵（ギフト）を受けたかという質問は12人から12人が答えた。

1. 領隊や事務や事務担当に行かないといけないときに担当者が連れて行ってくれる（12人）

2. アパートのことを日本語のルールに困ることがあれば事務の方に聞く（5人）

5. 今後、仕事をどのように応援（ギフト）が必要かという質問は12人から10人が答えた。

1. 会社扶養の研修や勉強会を行ってほしい 4人

2. 生活者のコミュニケーションや会議の練習を行ってほしい 2人

3. 国家試験に向けた勉強を行ってほしい 2人

4. 勤務が固定出来たらあるがいいですか 1人

5. 別窓外と会入室料を減らしたら助かる 1人

6. 今後、生活ではどのような応援（ギフト）が必要かといふ質問は12人から5人が答えた。

1. 会社扶養の研修や勉強会を行ってほしい 4人

2. 生活者のコミュニケーションや会議の練習を行ってほしい 2人

3. 国家試験に向けた勉強を行ってほしい 2人

4. 勤務が固定出来たらあるがいいですか 1人

5. 別窓外と会入室料を減らしたら助かる 1人

6. 今後、生活ではどのような応援（ギフト）が必要かといふ質問は12人から5人が答えた。

7. 和里（にこり）で働くことで、困ることをみればお渡りください」という質問は12人から10人が答えた。

ここまで書いていくと聞けば、この質問が難題で困っていることや困らなければいけないことがあれば優しい言葉で教えてくれて「がんばれ」と応援してくれる。

会社も社員の扶養を応援していくために、もっと強制し、手当やボーナスに充てて会社がいてくれないと困りますよってなったから、福利厚生はいろいろな感じでいい（関西）

最終回となると困るなと思うのですが、さくわいそれが必要なときに自己犠牲もできただろうに、にこりで就職するのではなくて、本当にマネオだと思っていました。

LIFE 2023（実践レポート集） < 9 >

# 外出支援からQOLの向上を図った取り組み

私たち

部署： 朱雀ユニット、青龍ユニット

施設名： 和里（にこり）

報告者： （朱雀）上村 成美 （青龍）メリッサ

取り組みのねらい

生活者が行きたいと思う場所へ行き、生活者のQOL向上・新たな一面の発見を日々の暮らしにつなげることを目的とする。

2020年からコロナウイルスの影響で、外出が思うようにできなかった。同時に生活者の生活の質も低下がみられていたことも否めない状況であった。

そこで協力ユニットで話し合い、各ユニットで、生活者が身体的な現状や、様々な不安から「ここに行きたいけど…難しいよね…」と半ばあきらめ無理だと思っている、本当に行きたい場所の聞き取りを行った。

実現可能な場所をピックアップし、実際に一緒に出かけ、QOLの向上につなげたいと考え取り組みに至った。



ユニット  
年齢と既往歴

朱雀①

92歳/迷走神経障害

写真



介護度

要介護5

ADL

自操可能、入居間もなく  
居室で過ごすことが多い

朱雀②  
96歳/特になし



要介護5

全支援、積極的な会  
話は見られない

青龍③  
94歳/大腿骨頸部骨折



要介護4

全支援、骨折による痛み  
あり。気分にムラがある

青龍④

96歳/心不全



要介護3

一部支援、認知症症状  
が進みトイレも多い

## 取り組みの内容

### 対象生活者の選定、行きたいところの聞き取りと行動計画

#### I) 聞き取り内容とアプローチ方法

朱雀①：居室で一緒にテレビを見ながら聞き取りを行う。  
「こんな所、楽しそうやな。肉と寿司が食べたい！服も欲しいし…、色んなもん見たいな」→2023年7月18日（火）ショッピングモール（エコールマミ）に行く。  
朱雀②：お誕生日を控えており、家族とご本人を交えて居室で行きたいところを聞く。花のワードが出ると反応があり、家族の顔を見て頷く。「紫いっぽいの花見たい」→2023年10月6日（金）馬見丘陵公園と茶屋に行く。

青龍③：居室で写真と一緒に見ていると、昔飼っていた犬のことを話し出す。  
「懐かしい、ヨシヨシしたい」→2023年6月29日（木）ショッピングモール・トナリエ内のペットショップ（ひごペット）に行く。  
青龍④：リビングのテレビでお花の映像を見ると「綺麗、行きたい」「甘いものを食べたい」→2023年10月30日（月）馬見丘陵公園、アイスクリームを食べる。

## 取り組みの成果

外出支援から得られた効果は多種多様。様々な気づきと生活者、支援職、家族との関係性の向上もあった。

両ユニットの生活者ともに、普段はあまり話さない方が「かわいいね」「あっちも見たい」「お花がいっぽい。きれい」と外出支援中、多くの発言があった。

表情にも変化があり、笑顔など多くみられた。外出支援後は、思い出話を生活者が笑顔で家族と話す様子や、居室でほとんどの時間を過ごしていた方が、外出後よりリビングに出て、色塗りをするなどの行動の変化があった。

看取りの際は、家族より「あの時に選んでくださった服を気に入っていたので、最期の時はその服を着せてあげてください」といったケースもあった。

外出支援が生活にもたらす影響は、様々であると知ることができた。初めて外出支援に行った支援職も、生活者の普段見られなかった一面を見て、達成感や外出支援の大切さを学んだ。この経験をユニット間でも共有し、今後も継続していきたいと思う。



## その人らしい暮らしの継続を実現する取り組み

私たち

部署： 白虎ユニット， 玄武ユニット

施設名： 和里（にこり）

報告者： 馬場 真弥子， 徳丸 勝也

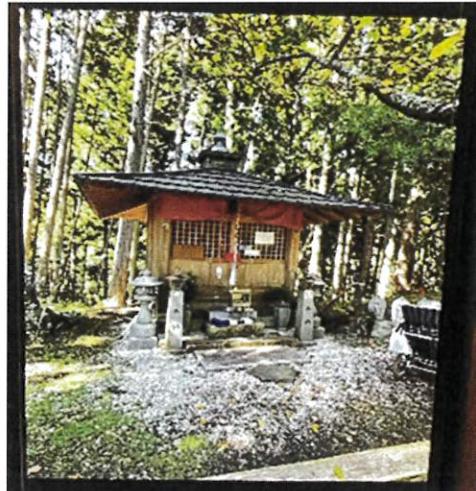
取り組みのねらい

多職種と連携して本人の希望をかなえる

今回は施設に入って3年になる生活者がふと話した「生まれ故郷に帰りたい」「よく行った高野山のお地蔵さんに行きたい」という言葉からこの取り組みが始まった。

その生活者は、座位時間が2時間を超えると喘鳴が見られ、姿勢が前かがみになり話すこともしんどくなる状態が続いていた。その上、高野山に行く計画を立てていた矢先に、体調を崩してしまい食事・水分量が減少した。意欲や体力も低下していき、医務からは現状では長時間の外出は難しいのではないかと思われていた。その中、今年度のキーワードが「応援」であることから多職種と連携し、本人がまた「行きたい」と意欲を取り戻し、希望を実現するためにどのようにアプローチをしていくかユニットで取り組むことにした。

倫理的配慮として、今回の取り組みを行うにあたり生活者本人、家族に内容の説明を行い同意を得た。また、写真使用の同意も得た。



## 取り組みの内容

高野山に行けるための体力をつけ、本人のモチベーションを上げていく

食事量や水分量が減少し、体力が低下したため、栄養士・家族と協力し、食事の見直し（嗜好調査・栄養補助食品など）や本人の嗜好品を持参依頼し、水分はストローなどに変更し、小まめに提供を促した。

高野山の実家の話などをして、本人が、前向きになるようなコミュニケーションを実施。長時間の外出になるため、9月に準備段階として娘様と過ごした家に外出し、戻られた際は「良かった！ありがとう」と笑顔だった。

## 取り組みの成果

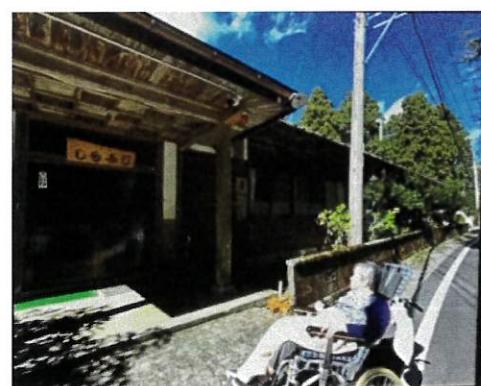
視野を広げるためには、様々な視点から意見をもらうことが大切であることを改めて気付いた。

食事量が回復した9月に外出できたことで本人の自信に繋がり、以降「いつ高野山に行くの？」と話されることが増えた。家族も「連れて行ってあげたいが、本人の体調を考えると…」と心配な声もあったが、医務・ケアマネジャー・支援職と話を重ねていくうちに安心され、10月に高野山に行くことができた。

行く前日から道中まで不安な表情をされていたが、通っていた小学校や生家、よく行っていたお地蔵様に行かれ、昼食を食べ終始笑顔で過ごされた。

お土産などを買い、帰ってこられた際は素敵な笑顔で「ただいまーよかったよ。次は桜見に行こな」と話されていた。

今回の取り組みを通して、日々の暮らしの中で、報告・連絡・相談を行い、様々な視点からの意見をもらうことで視野が広がり、より良い方向へ向かっていくことを改めて気付いた。



テーマ

# 医務室における看護の統一化 ～3施設が互いに応援に行ける体制づくり～

私たち

部署： 医務室

施設名： 和里（にこり），和里（にこり）香芝，和里（にこり）香芝Ⅱ

報告者： （和里（にこり））川人 明美，（香芝）岸田 絹代

取り組みのねらい

体調不良などによる人員不足時に、互いに応援に行ける体制が整えば、生活者の日常や健康を守ることができ、社員は療養に専念できる。

ここ数年、さまざまな感染症が世界中で発生し、現在、コロナやインフルエンザが大流行している。

和里（にこり）でも令和4年1月にコロナが蔓延し、施設内をゾーニングし、スタンダードプロトコーションの徹底で収束させた経緯がある。

その間、支援職においては、不足となったユニットへは他のユニットから応援を集め、生活支援のフォローができた。

しかし、看護職員が人員不足に陥った場合、生活者の健康管理・服薬・処置・受診などにおいて、各施設独自の看護手順のため、フォローに時間を要し困難であった。

今回、各施設の看護手順を統一し、応援体制が整えば、生活者への影響も最小限に止め、なおかつ、休む看護職員も安心して療養に専念できると考えた。

3施設それぞれの看護手順の見直しを行った。

**before**

申し送り表の統一

過去の情報が多い

単色で統一性がない

情報収集に時間を要す

**after**

必要な情報を簡潔に記載

色で分かりやすく

注意喚起※処置 ■受診

**before**

回診簿の統一

嘱託医に渡す書類 薬局にFAXする書類

2枚PC打ち

共通部分を分かりやすく

2枚を1枚の書きで

**after**

## 取り組みの内容

各施設の相違点を洗い出し、互いに見直し変更した看護手順の周知を行う。看護の良い点は尊重して残し、改善箇所は各施設で共有する。

まず、各施設で使用している書類を揃えた。個々のオリジナルではなく、和里(にこり)のひな型で統一した。ばらつきがあった手順・取扱い方法なども統一した。内服の作成・錠数の表記の仕方など単純明快で誰が見てもわかりやすいように変更した。生活者に対し、日常行う看護が早期にできるよう、申送り表には簡潔でわかりやすく見やすい記入を心掛けた。急な応援要請があっても、速やかに普段の看護が提供できる環境を目指した。



## 取り組みの成果

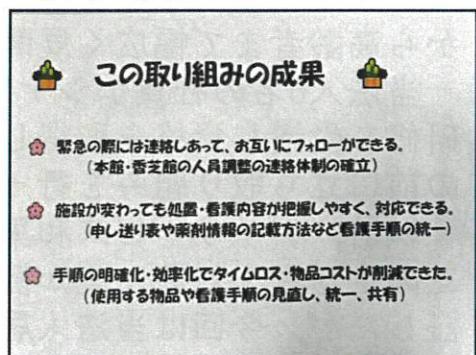
体調不良などで看護職員が人員不足となった場合に、配置転換されても、提供される看護は変わらず、いつでも応援に行くことができる。

申送り表などの使用書類が統一されたことで、勤務施設が変わっても、行う処置や対応すべきことが同じ書式で記されているため、提供する看護内容を把握する時間が短縮された。

使用物品や手順を見直した結果、コストダウンに繋がることもあった。

記録など重複していたことも多々あり、省略し、明確化することで作業効率を上げることができた。

今回、看護手順を統一したことは、サービスの質の向上だけではなく、看護職員間でも施設の垣根がなくなり、働きやすさにも繋がったと考えられ、今後も定期的に継続していきたい取り組みとなった。



# シナプソロジー<sup>®</sup>活用による 認知機能の向上の変化についての検証

私たち

部署： デイサービスセンター（1）（2）， ケアプランセンター（1）

施設名： （1）和里（にこり）， （2）和里（にこり）香芝

報告者： 加藤 基， 森田 幸枝， 南 泉

取り組みのねらい

シナプソロジーに取り組むことが、認知機能にどのような変化をもたらすかを検証する。

我が国の2023年9月推計65歳以上人口は3,627万人と、総人口に占める割合は29.1%と過去最高であり、認知症患者数は2025年に730万人になると予測されている。そのため、認知機能低下予防が大きな課題となっている。

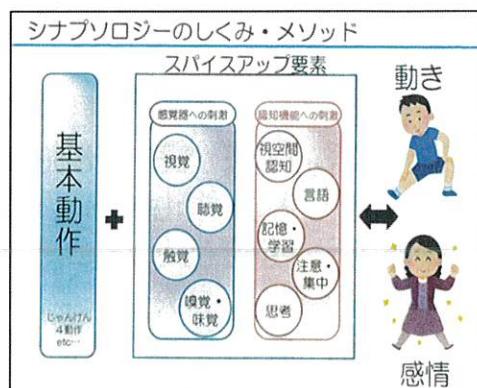
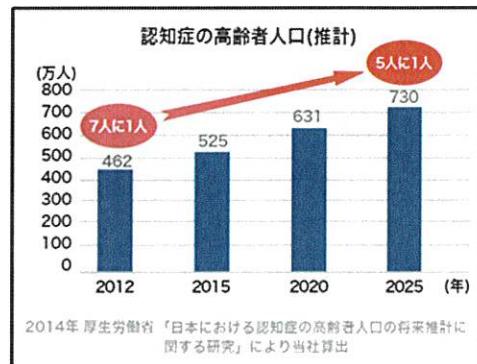
当法人にある2つのデイサービスでは、2021年より生活者の認知機能低下予防のためにシナプソロジーを導入している。

シナプソロジーとは、「2つのことを同時に使う」「左右で違う動きをする」といった、普段慣れない動きをすることで脳に適度な刺激を与え、活性化を図る取り組みである。

エクササイズは数百種類あり、子どもから高齢者まで幅広く展開している。

当法人6名の社員がシナプソロジーの研修を受講し資格を取得し、日々生活者の前に立ち取り組みを行っている。

以前、デイサービス和里（にこり）香芝の生活者を対象に認知機能の変化を検証したが、今回は当法人居宅ケアマネジャー担当の、2つのデイサービス生活者に対し、シナプソロジーが認知機能にどのような変化をもたらすかを検証することにした。



シナプソロジーは、株式会社ルネサンスの商標登録です

## 取り組みの内容

本取り組みに同意を得た生活者15名に対し、3ヶ月間シナプソロジーに取り組んでもらい、認知機能の変化について検証した。

1. (1) 12名・(2) 3名に対し、7月に長谷川式簡易知能評価スケール(以下、「HDS-R」)を実施。
2. デイ利用時に1日1~2回、シナプソロジーに取り組む。本人の様子や変化を観察、ケアマネジャーはモニタリング訪問の際に本人や家族から様子や変化を確認する。
3. 10月に再びHDS-Rを実施。評価結果・変化や気付きをデイとケアマネジャーで情報交換。評価結果についてケアマネジャーが本人・家族に伝達する。



## 取り組みの成果

60%の生活者に認知機能の改善、多くの生活者がシナプソロジーの時間を楽しみ心待ちにし、他の活動にも積極的に関わり意欲が向上。

ほぼすべての生活者に集中して楽しみながら取り組む姿がみられ、加えてデイサービスでの畠での野菜づくりや昼食の配膳の手伝いなどの活動に、以前より意欲的に取り組むようになった生活者もいる。

ケアマネジャーとの会話も増えたよう感じ、本人からも「シナプソロジーは楽しい」との声があり家族も喜んでいる。

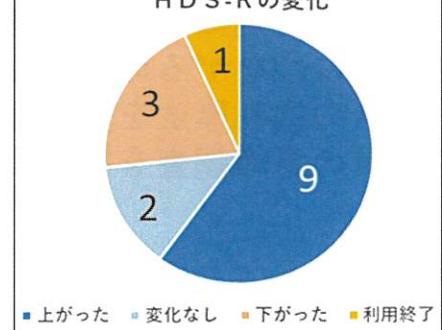
ケアマネジャーとしても、シナプソロジーは笑顔やコミュニケーションが生まれ、認知機能向上だけでなく集中力や意欲も向上すると感じられた。

今後もデイサービスと居宅ケアマネジャーで協力し、生活者の在宅生活継続を応援していきたい。

HDS-Rによる点数

利用者	要介護度	認知症 自立度	メソッド	
			前	後
A	要介護 2	自立	28	28
B	要支援 2	自立	22	24
C	要介護 2	II b	23	27
D	要介護 3	III a	5	6
E	要介護 1	I	24	23
F			11	利用終了
G	要介護 2	II b	17	18
H	要介護 1	II a	19	19
I	要介護 2	II a	17	21
J	要介護 3	II b	13	15
K	要介護 1	II b	15	23
L	要介護 1	II b	13	19
M	要介護 3	III a	12	20
N	要介護 2	II b	26	25
O	要介護 3	III a	11	9

HDS-Rの変化



# GLTD<sup>\*1</sup>導入を基に福利厚生に対する社員の意識調査

私たち

部署： 事務室

施設名： 和里（にこり），和里（にこり）香芝

報告者： 平口 智恵・松本 果菜

\*1 GLTD (Group Long Term Disability)：団体向け長期障害所得補償保険は、在職中に病気やケガなどで就業困難になった場合の公的保険や一般的な生命保険、医療保険などではカバーされない長期間の収入減が補償されます。

取り組みのねらい

休復職制度を整え「安心して働ける環境」を提供し、社員を大切にする社風をPRし、優秀な人財定着・確保への効果を期待する。

社員一人一人が生き生きと暮らせる社会の実現に向け、人的資本への投資に注目する。その重要な要素として「健康」が位置付けられる。

健康への投資を促進することを目的に、法人が社員の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持につながる取組が求められている。

今日、疾病予防のみならず、疾病による長期休暇に見舞われても社員の「ウェルビーイング・エンゲージメントの向上」はもとより「会社の生産性の向上」にもつながることを考える。

テレワークを一定の条件下で推奨することで、身体の負担軽減や時間の有効活用に役立ててもらうなどの環境を整えつつある。併せて、すべての社員がどのような状況下であろうと、その社員の家族を支えることにも目を向けていたい。

経済的安定は、全ては補えないが精神的安定につながるのではないだろうか。

今後の福利厚生を見据え、GLTD導入から社員の意識調査を行う。

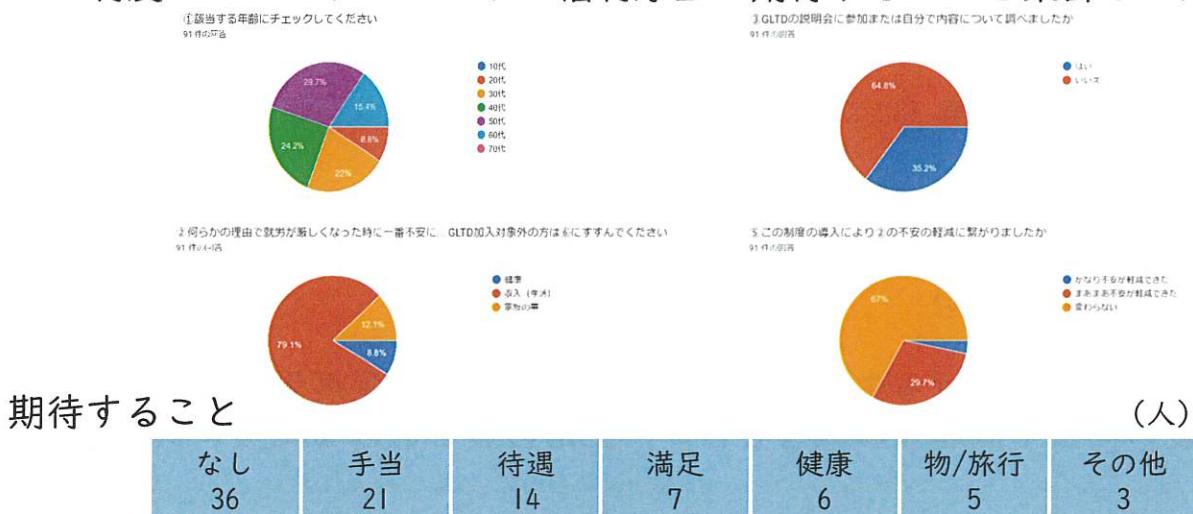
魅力的な法人とは…



## 取り組みの内容

- ・対象：社員200名・調査期間：2023年11月21日～11月28日)
- ・方法：GLTD制度への意識、期待するものをGoogleフォームで集計。

GLTD制度についてアンケートと福利厚生に期待することを集計した。



## 取り組みの成果

### GLTD制度導入に関するアンケート結果と人材の定着・確保への活用の考察

79.8%の社員が収入面で最も不安であると答えており（グラフ②）、GLTD制度が収入面の不安を解消できるのではないかとの意見がみられた。

反して、本制度について「説明会参加」「自分で調べた」社員は64.8%にとどまった。

社員自身も制度がどのように利用できるかを定期的に確認し、自身のニーズに沿った制度を積極的に利用し、社内で情報を提供しあうことで社員間のコミュニケーションのひとつとなりうる。

福利厚生制度は社員が健康で充実した働きやすい環境を享受するための大切なサポートである。

今後、期待することでは、「満足」と感じている社員もいる。よりよい職場生活を築いていけるよう、これらの制度を活用していくよう社内外に発信ていきたい。



# 和里（にこり）香芝における食事の味の満足度調査

私たち

部署： 万葉ユニット， 大和ユニット， 天羽ユニット， 飛龍ユニット

施設名： 和里（にこり）香芝

報告者： 田中 雄貴

取り組みのねらい

当施設における生活者の食事の味について満足度調査を実施。満足度の向上や問題点の改善を行い、生活の質をあげる応援に繋げる。

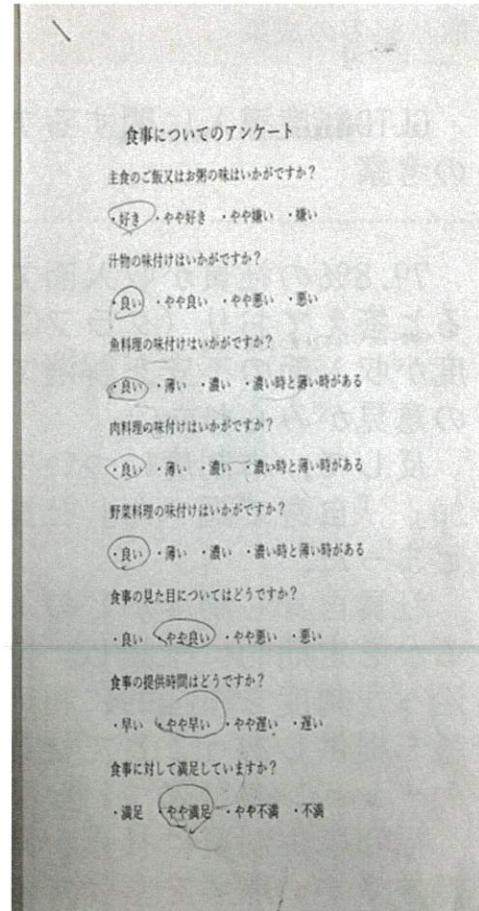
食事というテーマでどのようにキーワードの「応援」に繋げていくかユニットで考えた結果、食事の満足度調査を行い、満足度の向上や問題点の改善に反映させるために行うと決定した。

経口摂取の生活者全員にアンケートを実施した。

ユニットで統一したアンケートのテーマを作成した。

生活者に分かりやすい質問を行うことによって食事の満足度調査を偏りなく行うことと生活者でコミュニケーションが困難な場合にどのようにアンケートを実施していくかが課題だった。

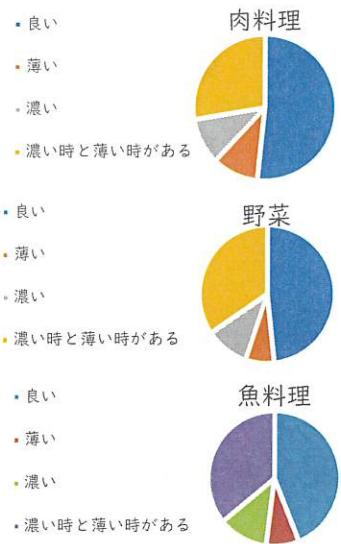
目標としてはアンケートを実施することにより満足度の向上や問題点の改善を行い、生活の質をあげる応援に繋げていきたい。



## 取り組みの内容

和里（にこり）香芝29名の生活者にアンケートを実施する。その結果満足度の向上や問題点の改善に反映させるために行う。

味については主食のご飯・お粥・汁物は7割以上が良く、魚料理は半数の生活者が濃い時と薄い時があると満足をしていない。肉料理は半数は濃い時と薄い時があるという回答だった。野菜については半数が良いと回答され、薄い時と濃い時があると半数の回答だった。また食事の見た目については半数以上がよい、やや良い回答だった。食事時間についてはどのユニットでも「ちょうどいい」「食事時間が早い」「食事時間が遅い」という意見が出ていた。



## 取り組みの成果

アンケート結果により生活者の貴重な意見を聞くことにより満足度向上に繋げていく。

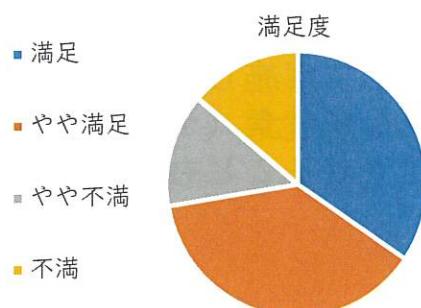
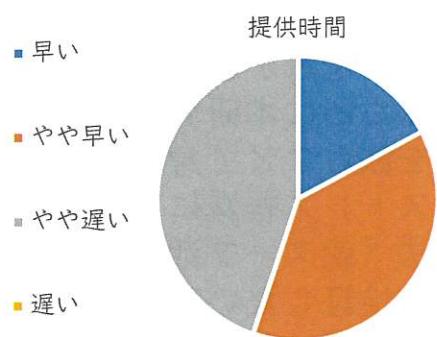
食事の満足度は7割の生活者が満足されている結果だった。

和里（にこり）香芝では、①栄養士を通して現在の発注先のアイサービスに味の満足度の調査結果を伝えていく。

②生活者の希望通りの時間に提供していく

③生活者にあった食事の温度で提供していく。

「生活者の希望通りの時間を調整し、食事の温度については生活者の希望にあわせ、一定の温度で提供できる工夫をした結果、満足されていた」とのことだった。



# 朝スープ活動を導入する試み

私たち

部署： 栄養職

施設名： 和里（にこり），和里（にこり）香芝，和里（にこり）香芝Ⅱ

報告者： 原賀 裕也

取り組みのねらい

「朝スープ活動」の考え方を生活に取り入れ、生活者のQOLの向上と不足しがちな栄養素（ナトリウム）の安定した充足をねらう。

高齢者の健康維持や生活の質の向上は現代社会の重要な課題であるが、特別養護老人ホーム生活者の中には提供される食事に关心が向かず食欲がわからないという方も少なくない。

また、冬期は寒さで身体が冷えやすく食事摂取量が少ないと余計に風邪やインフルエンザなどの感染症にかかりやすくなる恐れがある。これらの問題を解決するため本研究では朝食に温かいスープを飲むことで身体を温めて代謝を上げ、ストレス軽減にも有効であるという健康法「朝スープ活動」を導入し、その効果を検証したいと考えた。

今回はおかずを食べる量が極端に少なく潜在的にナトリウムが不足しがちな生活者、すなわちスープを飲むことで特に有益な効果が得られそうな生活者を対象として実施し、その方にとて不足しがちな栄養素（ナトリウム）を安定して充足させることも狙いたい。

The screenshot shows a Microsoft Bing search results page. The search query is '朝スープ活動の効果'. The results include several links and snippets related to the health benefits of morning soup, such as its ability to regulate metabolism and reduce stress.

## 取り組みの内容

おかずの摂食量が少ない（0～数割）生活者を対象に朝1杯のスープを習慣的に提供した。ナトリウムの補給と朝スープ活動の効果を狙う。

管理栄養士が抽出したおかずの摂取量が少ない（0～数割）生活者（1名）に毎朝インスタントスープを摂取してもらう。

スープをどの程度召し上がるか、他のおかずなど食事量やその他変化が見られるかを観察する。



## 取り組みの成果

スープ自体を好まれなかった。代替手段として牛乳・豆乳を含む温かい飲料や具材を加えた粥や雑炊でも同等の効果があるかもしれない。

おかずの摂取量が少ない生活者1名に朝スープの提供を行ったが、スープ自体を好まずほとんど飲まれないという結果に終わった。他に効果をえられそうなスープ以外の代替手段としては栄養素が豊富な牛乳・豆乳を含む温かい飲料、あるいはナトリウム補給のためには具材を加え味付けした粥や雑炊のようなものがある。これら温かい食品を有効に活用することで生活者的心身を温め、その生活者が心地よい一日の始まりを迎えるよう日々応援することができれば嬉しいことであると思う。

Microsoft Bing 検索 チャット Switch to Bing in English ログイン

朝スープ活動を特別養護老人ホーム入居者に試そうとしましたが、スープをあまり好まれない方がいました。この方のためにどのような代替手段がありますか？

✓ 朝スープ活動の効果と代替手段 を検索しています  
✓ 回答を生成しています...

朝スープ活動は、体温を上げてストレスを軽減し、脳の機能を活性化するという効果が期待できるという研究があります<sup>[1]</sup>。しかし、スープを好まない方には、他の温かい飲み物や食べ物を提供することで代替できるかもしれません。例えば、以下のようなものがあります。

- 温かい牛乳や豆乳：カルシウムやタンパク質が豊富で、骨や筋肉の健康に良いです。牛乳にはトリプトファンというアミノ酸が含まれており、セロトニンという神経伝達物質の生成に必要です。セロトニンは、気分を安定させたり、睡眠の質を向上させたりする効果があります<sup>[2]</sup>。
- 温かいお粥や雑炊：消化が良く、胃に優しいです。米にはビタミンB1やB6が含まれており、穀質の代謝や神経系の機能に必要です。お粥や雑炊に具材を加えることで、栄養バランスを整えることができます<sup>[3]</sup>。
- 温かいハーブティーやフルーツティー：香りや味が楽しめるだけでなく、ハーブやフルーツには様々な効能があります。例えば、カモミールはリラックス効果があり、レモンバームは気分を明るくする効果があります。フルーツティーにはビタミンCやポリフェノールが含まれており、免疫力や抗酸化作用に良いです。

以上のように、朝スープ活動の代替手段として、温かい飲み物や食べ物を選ぶことで、体温を上げてストレスを軽減し、脳の機能を活性化することができるかもしれません。もちろん、個人的好みや体調に合わせて、適切なものを選んでください。朝から心地よく過ごすことが、一日の健康につながります。

## 余暇活動再開による生活の質の向上

私たち

部署： 故傍ユニット， 香具ユニット， 耳成ユニット

施設名： 和里（にこり）香芝Ⅱ

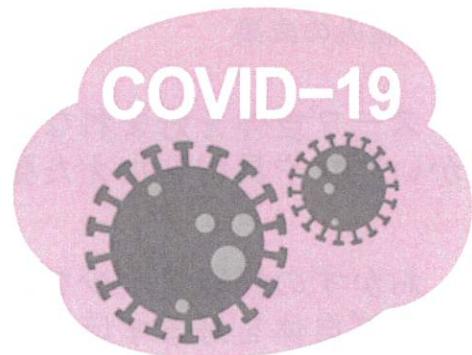
報告者： 田中 亜衣

取り組みのねらい

より充実した生活を生活者に送って頂くための余暇活動の提供

2019年末に新型コロナウイルスが発生し、感染対策がわかるまで、外出や屋内で人が集まって何かを行う余暇活動も自粛傾向となった。外出以外では、テレビなどからの情報や気温の変化のみとなるため、季節を感じることが難しくなり、それまでと比べて生活者の生活の質を落とさざるをえない状況となった。

余暇活動がなくとも生活者に笑顔がなかったわけではないが、屋内ののみの生活は変化に乏しく、支援職からは三大介護のみを提供している4年間となっていた。しかし、今年からは新型コロナウイルス発生以来中止していた外出支援を4年ぶりに再開できるようになった。昨年、香芝Ⅱは感染対策を行った上で、独自に外出以外の余暇活動を企画し実施していたが、今年度は外出支援を含めた余暇活動を企画、実施することで生活者の生活の満足度を上げていきたいと考え、この取り組みを行うこととした。



## 取り組みの内容

生活者の希望を知り、その希望を実現する

- ① 各ユニットで担当者と企画担当月を決める。
- ② 生活者にどのようなことに興味があるか、やってみたいことのアンケートを取る。
- ③ それを元にまたは季節のイベントに合わせて企画を作る。
- ④ 当日、生活者の表情を観察し、評価する。

	やってみたい ごとに 「〇」 をしてください		やってみたい ごとに 「〇」 をしてください
料理をつくる		散歩	
買い物		グランドゴルフ	
家や庭の手入れ・世話		ダンス・踊り	
洗濯・洗濯物たたみ		野球・相撲など競技	
動物の世話		編み物	
友達とおしゃべり・遊ぶ		針仕事	
家族・親戚との団らん		畑仕事	
居酒屋に行く		その他( )	
お参り・宗教活動		その他( )	
読書		その他( )	
俳句			
書道・習字			
絵を描く・絵手紙			
パソコン・ワープロ			
写真			
映画・観劇・演奏会			
お茶・お花			
歌を歌う・カラオケ			
音楽を聞く・楽器演奏			
将棋・囲碁・麻雀・ゲーム等			
体操・運動			

## 取り組みの成果

季節を感じたり地域の人々と交流ができたりしたが、一部の生活者にしか提供ができず、支援職間に温度差があった。

支援職主体で企画、実施できたのは10月からとなった。

しかし出掛けた際は「綺麗やな」と花々を見て写真を撮る楽しむ様子があったり、「こんにちは」と地域の方々からの挨拶があったり、地域の人々と交流することができた。

すなわち、三大介護を行うだけが全てではないことを再確認することができた。

企画の準備は万全に行えていたが、企画通りに行えることが少なく、案内できた人数が限られていたり、支援職間との企画運営の連携が図れなかったことも要因となった。

今後の課題として改善し、取り組んでいきたいと思う。

### 結果

- 7月：花火大会
- 8月：実施できず
- 9月：敬老の日祝い
- 10月：馬見丘陵公園への外出
- 11月：体操＆映画観賞会
- 12月：クリスマス
- 1月：初詣



